

2025年度事業報告



学校法人 城星学園

はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、2025年度においては、理事長の「中期および2025年度基本方針(別掲)」に基づいて、全校種が一体になって、学園の建学の精神のもとに教育活動を推進した。学園創立70周年を経て地域に開かれた学園としての様々な取り組みを開始するなど新たな歩みを始めており、AIに代表される時代の変化や少子化の波の中にあって、学園の教育活動において変革できることと、守るべきことを識別しながら、教育環境の整備、教育活動のさらなる充実をはかってきた。その過程において創立者ドン・ボスコの「子どもを愛するだけでは足りない、子どもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表される教育理念を再認識し、その教育理念のもとに、今後も本学園の教育活動を展開していく。

また、外部に対する情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められており、2025年度においても学園後援会との連携のもと、全保護者対象のアンケートを実施し、貴重なご意見が多数寄せられた。その結果を学園の教育活動に活かしながら、2025年度学校評価としてまとめた上で情報公開するとともに、2026年度に向けてさらに充実した自己点検評価と教育活動のさらなる活性化に繋げていきたい。

《中期および2025年度基本方針》

1. ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。
2025年度：サレジオ的な「柔和」が園児・児童・生徒・保護者によって日々感じ取られるような環境づくりに重点的に取り組む。そのために、和やかなアシステンツァを愚直に実践する。
2. 園児・児童・生徒・教職員が“Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。
2025年度：大規模な施設設備更新工事に際し、園児・児童・生徒の安全確保について万全を期す。「安心」についての教職員の意識を高め、ドン・ボスコ子ども未来センターと各校種との連携を深める。
3. 学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。
2025年度：他校園の実地見学に加え、オンライン研修などを積極的に取り入れながら、さまざまな教育実践についての学びを深める。一方で、学園教職員同士の自主的な学び合いの機会を増やす。
4. 学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。
2025年度：学園教職員の協働により、高校共学化にともなう環境の変化に柔軟・機敏に対応し、円滑な移行を実現する。また、今後の施設設備更新のあり方について、部署ごとに具体的な検討を行う。
5. 保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。
2025年度：後援会や同窓会、教会などとの共催イベントの企画を積極的に進める。「地域とともに歩む学園」として、コンプライアンスを尊重し、社会的使命を果たすことにより、学園の存在感を高める。

《 2025年度取り組み事例》

- ・これまで、学園給食センター（一富士フードサービス㈱）より、月・水・金曜日は幼稚園、火・木曜日は小学校に給食を提供してきたが、2025年度より、小学校において㈱富喜屋の配送による弁当給食を採用することで、幼稚園は学園給食センター、小学校は㈱富喜屋で、それぞれが毎日給食を提供するようになり、毎日の給食を希望する子どもたち・保護者のニーズに対応。
- ・9月6日に後援会の協力のもと、学校法人主催で第1回城星学園防災体験フェスタを実施した。自衛隊、警察、消防署、大阪市中央区役所がそれぞれブースを設けて、来場者に防災体験をしてもらった。地域へのオープンイベントでもあり、岡山市振興町会協力事業にも指定。
- ・2026年3月19日付けで㈱鍛冶田工務店と小学校棟増築工事契約を締結。
- ・北門及び東門を設置し、小学校棟増築工事に伴う正門出入りの制限に応じて、子どもたちの安全な登下校に機能的に活用。
- ・「学びの森」プロジェクトによる高等学校での探究型学習の強化と進路指導の充実。
- ・カトリック系大学、有名私立大学との高大連携による進路指導の充実。
- ・総合スポーツ教育センターによる小学校放課後学童保育「城星オラトリオ」の運営、ならびに同センタースタッフによる高校水泳部の指導。
- ・体育館において、夏・冬ともに快適に使用できるように空調設備を完備。
- ・ドン・ボスコ子ども未来センターを活用した多面的サポート体制を構築。
- ・園庭における野菜栽培を通じての幼稚園の食育推進。
- ・幼稚園における保育環境のさらなる充実。

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

1. 法人の概要

建学の精神 : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である「道理」と「信仰」と「愛」に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする「良心的な人間、よき社会人」を育成することを使命とする。

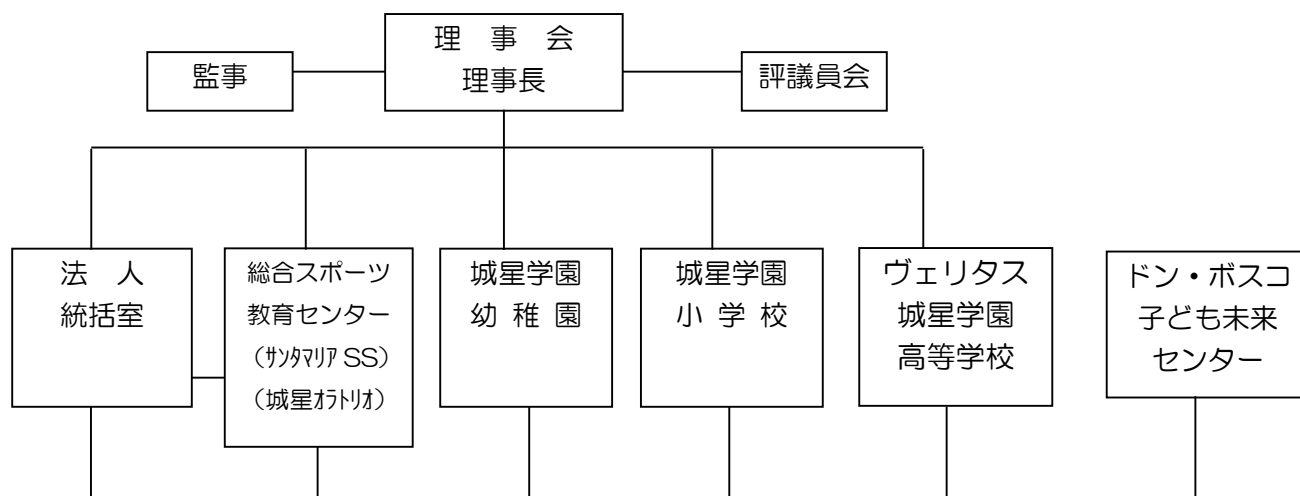
所在地 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

法人成立の年月日 昭和28年3月25日

学校設置認可年月日

幼稚園 昭和28年3月16日
小学校 昭和28年3月16日
中学校 昭和34年2月27日（令和6年8月22日廃止）
高等学校 昭和37年1月14日

学校法人 城星学園 組織図 （2026年4月1日現在）



1) 設置学校及びクラス数

(2026年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	ヴェリタス城星学園高等学校（全日制普通科）
3 年保育 3 クラス	1 年 4 クラス	1 年 キャリア進学コース 2 クラス、キャリア探究コース 2 クラス
2 年保育 3 クラス	2 年 4 クラス	2 年 キャリア進学コース 1 クラス、キャリア探究コース 2 クラス
1 年保育 3 クラス	3 年 4 クラス	3 年 Allegro コース 1 クラス、Vivace コース 1 クラス
計 9 クラス	4 年 4 クラス	計 9 クラス
	5 年 4 クラス	
	6 年 4 クラス	
	計 24 クラス	

(2025年度)

城星学園幼稚園	城星学園小学校	ヴェリタス城星学園高等学校（全日制普通科）
3 年保育 3 クラス	1 年 4 クラス	1 年 キャリア進学コース 1 クラス、キャリア探究コース 2 クラス
2 年保育 3 クラス	2 年 4 クラス	2 年 Allegro コース 1 クラス、Vivace コース 1 クラス
1 年保育 3 クラス	3 年 4 クラス	3 年 Allegro コース、Vivace コース混合 2 クラス
計 9 クラス	4 年 4 クラス	計 7 クラス
	5 年 4 クラス	
	6 年 3 クラス	
	計 23 クラス	

2)定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	ｸﾗｽ	現員	ｸﾗｽ	現員	ｸﾗｽ	現員	現員	
2026	9	250	24	683	9	251	1,184	+109
2025	9	253	23	670	7	152	1,075	+29

3)役員等・教職員

役 員 等:

年 度	理事	監事	評議員
2026	8 人	2 人	9 人
2025	7 人	2 人	1 7 人

教職員：

(各5月1日現在) (人)

年 度	幼稚園			小学校			高等学校			法人統括室			総合スポーツ教育センター			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他	
2026	15	6	11	25	16	6	14	6	16	8	3	3	4	4	34	172
	計 32			計 47			計 36			計 14			計 42			
2025	13	5	11	28	12	4	15	6	16	7	4	2	5	2	32	163
	計 29			計 44			計 37			計 13			計 39			

4) 役員会の開催

① 理事会・評議員会

理 事 会：	2025 年 5 月 2025 年 6 月 2025 年 8 月 2025 年 11 月 2026 年 3 月	評議員会：	2025 年 5 月 2026 年 3 月
--------	---	-------	--------------------------

② 監 査： 2025 年 5 月
2026 年 3 月(18日)

2. 募集計画及び教育計画等

()は内部進学者数。

年度	区 分	幼稚園			小学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育		
2027	新入生募集人員	90	若干名	—	約100	140
2026	新入生募集人員	90	若干名	—	100	140
	志願者数	124	4		201	207
	受験者数	122	4		183	207
	合格者数	93	4		134	203
	入学者数	84	4		115(42)	141
2025	新入生募集人員	90	若干名	—	100	140
	志願者数	132	5		190	115
	合格者数	91	4		137	113
	入学者数	78	3		114(47)	80

学校法人城星学園 中期行動計画-2025 年度のふりかえり

建学の精神:

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)の教育理念である「道理」と「信仰」と「愛」に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする「良心的な人間、よき社会人」を育成することを使命としています。

教育理念:

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

【中期方針・2025 年度部門別行動計画及びその評価】

《次頁以下のとおり。》

法人統括室

中期方針	2025 年度方針	中期行動計画	2025 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	サレジオ的な「柔和」が園児・児童・生徒・保護者によって日々感じ取られるような環境づくりに重点的に取り組む。そのために、和やかなアシステンツァを愚直に実践する。	柔和な環境づくりと和やかなアシステンツァを実践するために、・教職員の穏やかな物腰 ・穏やかで上品な言葉遣い ・気持ちの良いあいさつや声掛け ・こども目線に立ったやさしい対応 ・学園内緑化率の向上等に取り組む。	(1)月1回(または週1回)敬語講座など、来客対応に役立つ研修を実施する。(1回 10～15 分程度の研修)	学園全体のプロフェッショナルな印象の強化	△
			(2)「おはよう」「ありがとう」「お疲れさま」など、気持ちの良い挨拶を習慣化する。	教職員のモチベーション向上	○
			(3)園児・児童・生徒が安心できるよう、目線を合わせて優しく接することを意識する。	園児・児童・生徒の安心感醸成、子どもにとって心地よい環境の能動的構築	○

2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	大規模な施設設備更新工事に際し、園児・児童・生徒の安全確保について万全を期す。「安心」についての教職員の意識を高め、ドン・ボスコ子ども未来センターと各校種との連携を深める。	工事期間中のこどもの安全な動線の確保、守衛の適切な配置等、安全体制の維持・向上をはかる。ドン・ボスコ子ども未来センターによる教職員(事務職含む)育成プログラム作成を作成し、実施する。	(1) 工事業者と施設担当、管理職間で工事の状況を共有する機会を定期的に設け、当初の取り決めに変更事項が発生した場合、すぐ対応可能な連絡網の構築をする。	リスクの早期発見、トラブルの発生防止	△
			(2)工事期間中の災害時の避難ルートを確認する。	災害発生時の対応力向上	○
			(3)こどもの安全な動線を確保するために、必要な箇所へガードフェンスや案内表示を設置する。	子どもたちへの安全な環境の提供、事故や怪我のリスク減少	△
3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	他校園の实地見学に加え、オンライン研修などを積極的に取り入れながら、さまざまな教育実践についての学びを深める。一方で、学園教職員同士の自主的な学び合いの機会を増やす。	事務職員と教員をセットにした他校見学を企画・実践し、教職員の資質向上をはかる。	(1)当学園と同規模の学校法人への見学を企画し、各人最低一回参加する。	他の学校法人の優れた取り組みやアイデアの学び、自校への活用	○
			(2)他校の避難・防犯訓練等の見学を行い意識向上を行う。	より効果的な避難・防犯対策の実施	△
			(3)最新の教育実践を学ぶため、オンライン研修を定期的に受講する機会を設ける。	教育方法やアプローチの多様化、生徒一人ひとりに合った教育の提供、事務的補助方法の考察	△

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	学園教職員の協働により、高校共学化にともなう環境の変化に柔軟・機敏に対応し、円滑な移行を実現する。また、今後の施設設備更新のあり方について、部署ごとに具体的な検討を行う。	学園創立百周年に向けて、あるべき学園の姿を模索し、その間の学園のアクションプランを検討・作成する。	(1)学園の現状・政策を共有化し、先を見据えた資金の確保に努める。	関係者間の協力体制強化、共通目標への一致団結した取組	△
			(2)向こう5年間で発生しうる設備の更新を精査することで支出金額をある程度把握し予算検討時に反映させる。	リスクの事前把握と適切な対策	○
			(3)創立百周年にふさわしい学園を探るため、教職員・保護者・児童生徒の意見を集める。	創造的なアイデアや新たな取組の創出	△
5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステツァ」を深める。	後援会や同窓会、教会などとの共催イベントの企画を積極的に進める。「地域とともに歩む学園」として、コンプライアンスを尊重し、社会的使命を果たすことにより、学園の存在感を高める。	城星友の会等を通じて、学園の人的・物的資源を地域に還元する。また、地域や後援会等からの人的・物的資源を学園の教育活動に活用する。	(1)城星学園フェスタ開催に際して、後援会のバックアップを全面的に行う。	コミュニティ全体の一体感高揚、参加者全員が楽しめるイベントへの昇華	○
			(2)地域行事(防災訓練等)に参加し城星学園を広く宣伝する。また学園の防災訓練等にも地域の人を呼べるようにする。	地域社会への貢献、地域全体の安全意識向上	○
			(3)地域と連携した交流イベントを充実させ、学校行事や地域活動への積極的な参加を通じて学園の魅力を発信し、持続的な協力体制を築く。	地域住民との絆の深化、学園と地域社会の連携強化	○

6.教育計画		総合スポーツ教育センターの体制充実をはかる。	業務フローを整理し、ICT ツールを活用したデジタル化を推進することで業務負担を軽減する。	従業員の業務負担軽減	△
			定期的なミーティングを実施し、情報共有や業務の進捗確認を行う。	全員が共通目標に向かい、効率的に取り組める体制作り	○
7.募集計画		法人広報の活動を通じて、学園の認知度をアップさせる。	(1)友の会実施時にアンケートを行い現在の学園の認知度を調査する。調査に基づき、その後の施策を検討し、5%以上の認知度アップを図る。	効果的な認知度向上実現	△
			(2) SNS、イベント、など多様な広報手段を活用し、一貫したメッセージを戦略的に発信することで、学園の認知度を効果的に向上させ、ブランドの魅力をより広範囲に伝えるとともに、信頼性と認知度の向上を実現する。	学園ブランド(魅力)の伝達範囲拡大、学園の価値向上	△

幼稚園

中期方針	2025 年度方針	中期行動計画	2025 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	サレジオ的な「柔和」が園児・児童・生徒・保護者によって日々感じ取られるような環境づくりに重点的に取り組む。そのために、和やかなアシステンツァを愚直に実践する。	・ドン・ボスコやマリア・マザレロの教育理念を理解し、実践に生かせるように教員研修に努める。 ・「柔和」に基づく教育活動の重要性を再認識し、日々の活動の中に意識付ける。	カトリック精神に基づいた保育活動の実践と、さらなる深化充実に向け園内外の研修を学期に1回以上もつ。	サレジアンファミリーとしての自覚と意識改革を前提とした日々の行動変容の出現	○
			「予防教育法」の理解を深めるための研修内容を吟味し、日々の保育活動に活かすことができているかどうかの振り返りを行う。	学園の特長の発信による保護者との信頼関係構築かつ子どもの育成への寄与	○
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	大規模な施設設備更新工事に際し、園児・児童・生徒の安全確保について万全を期す。「安心」についての教職員の意識を高め、ドン・ボスコ子ども未来センターと各校種との連携を深める。	・安心安全な生活を目指すうえで、様々な危機管理意識を醸成する。 ・子どもたちの気持ちに寄り添い、子どもたちが自分の気持ちを素直に表現できる環境を保証できるよう努める。	工事に伴う、様々な環境の変化について、子どもの安全を第一に、より良いものになるよう工夫していく。	保育内容の充実と安全な園環境の確立	○
			様々な防災・防犯訓練を実施し、教職員・園児の危機管理意識の向上を図る。	教職員・園児の危機管理に対する意識改革と日常の行動変容	○
			子どもが安心して生活できるように、言葉遣いや行動に配慮して、子どもの人格を尊重する。	他を尊重し、感謝の心をもって人間関係を構築できる子どもの育成	○

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	他校園の実地見学に加え、オンライン研修などを積極的に取り入れながら、さまざまな教育実践についての学びを深める。一方で、学園教職員同士の自主的な学び合いの機会を増やす。	・園内外の研修の深化充実を図り、獲得したスキルの伝達講習を实践する。 ・育てたい子ども像を共有し、それを目指す園内研修テーマを策定し実践に活かす。	カトリック園の研修や外部の研修に積極的に参加し研修を深める。全教職員のスキル獲得を目指して、伝達講習会をもつ。	園児一人ひとりが神のまなざしのもとで誠実に行動し善を選び取れる人格形成の基礎作り	○
			自己肯定感・コミュニケーション能力を育む保育内容に照準を合わせた園内研修テーマを策定し公開保育を伴った園内研修をもつ。	園児の主体性や協調性の醸成のための保育内容の改革	△
4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	学園教職員の協働により、高校共学化にともなう環境の変化に柔軟・機敏に対応し、円滑な移行を実現する。また、今後の施設設備更新のあり方について、部署ごとに具体的な検討を行う。	・他校種、総合スポーツ教育センターなどとの連携の形を模索し、学園全体の案件について、教職員間の意見交換の場を設定する。	各校種の行事や日常の活動(保育内容)の中で積極的に交流の場を企画する。	他校種との交流による親近感やあこがれの心情の醸成内部進学 of 拡充	△
			教職員間の意思疎通を図るべく校種の垣根を超えた場づくりに努める。	各校種の課題を共有し協働的な解決方法の模索	○
5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシスタント」を深める。	後援会や同窓会、教会などとの共催イベントの企画を積極的に進める。「地域とともに歩む学園」として、コンプライアンスを尊重し、社会的使命を果たすことにより、学園の存在感を高める。。	城星学園を取り巻く様々な支援組織・団体との連携を深める。	学園、幼稚園としての社会的立場を自覚し、社会に貢献する一員として教育活動に努める。	学園の一員としての自覚喚起と教育活動への貢献	○
			未就園児に向けての活動(体験ひろば・親子であそぼう・見学の日)の内容充実に努める。	地域に向けた幼稚園教育活動の発信と認知度の向上	○

6.教育計画		子どもの発達段階に応じた、自己肯定感、コミュニケーション能力を育むための教育内容を構築する。	教育要領に則り、子どもの主体性や個性を尊重した、子どもにも教員にとっても、無理のない保育計画を立案する。	園児の協調性や責任感の醸成、自ら考え正しく行動できる力と他者との関係における解決力の習得	○
			子どもにとって価値あるものにするために行事や日々の保育内容のさらなる精選を行う。	日々の教育活動を通じた保護者の理解と信頼の獲得	○
7.募集計画		カトリック園として、教育方針を明確にし、園としての特長をアピールした園児募集を実践する。	園の魅力や教育方針を様々な機会（幼児教室、保護者会など）や情報ツールを用いて積極的に発信する。	新入園児（3歳児クラス）3クラス90名の確保	○
			他校種（特に小学校）との連携を強化し、学園内での進路選択の拡充につなげる。	保護者理解の深化	△

小 学 校

中期方針	2025 年度方針	中期行動計画	2025 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	サレジオ的な「柔和」が園児・児童・生徒・保護者によって日々感じ取られるような環境づくりに重点的に取り組む。そのために、和やかなアシステンツァを愚直に実践する。	ドン・ボスコの教育に立ち返り、柔和を体現し、子ども達と物理的また精神的に共にいる真のアシステンツァを実践する教師集団を目指す。	「道理」「信仰」「慈愛」に基づく教育を柱とし「Da mihi animas,cetera tolle」の言葉の通り、ドン・ボスコの教育の本質を見つめなおす。	ドン・ボスコの後継者としての自覚	○
			子ども、保護者に対しても教職員間においても柔和な言葉がけ、態度を心掛ける。	互いへのリスペクトの保持	○
			休み時間の遊びだけでなく、学校生活のあらゆる場面で、子ども達が教師の愛を感じられる環境を作る。	広い視野でのアシステンツァの実践	○

2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	大規模な施設設備更新工事に際し、園児・児童・生徒の安全確保について万全を期す。「安心」についての教職員の意識を高め、ドン・ボスコ子ども未来センターと各校種との連携を深める。	(A) 新校舎に向けて、刻々と変わる環境の中で子ども達が安心して過ごせるよう、安全教育をすすめる。	新築工事に伴い、避難訓練や安全教育を通して、避難経路等の確認等を行い、子ども達が安全に過ごせる環境を作る。	安全のための環境整備、各種訓練の実施	△
		(B) ドン・ボスコ子ども未来センターと連携を取り、子ども達の心が安心できる環境造りをする。	ドン・ボスコ子ども未来センターと連携を取り、様々な課題を持つ子どもに寄り添い、校内に心の安らぐ受け入れの居場所を作る。	全ての子ども達が安心できる居場所づくり	△

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	他校園の实地見学に加え、オンライン研修などを積極的に取り入れながら、さまざまな教育実践についての学びを深める。一方で、学園教職員同士の自主的な学び合いの機会を増やす。	(A) 校内研修だけでなく、外部研修で研鑽を高める。	現状にとどまることなく、様々な学びの在り方を模索し、一人ひとりがかけがえのない輝ける教師像を目指す。	外部研修への参加とフィードバック	△
		(B) 姉妹校、連携校との連携を進め、相互の教育理解と一致を深める。	チャレンジゼミ等の他校からの出前授業や情報交換会、児童交流、説明会を進め、姉妹連携校との連携を深める。	連携校、姉妹校との連携強化	○
		(C) 校内での自主研修を励行し、教員集団での学び合いを深める。	教師自ら研修を企画し、互いに高めあえる教師集団を目指す。	自主研修の企画立案実施	△

4.学園教職員全体が、学園の未来をともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	学園教職員の協働により、高校共学化にともなう環境の変化に柔軟・機敏に対応し、円滑な移行を実現する。また、今後の施設設備更新のあり方について、部署ごとに具体的な検討を行う。	(A) 学園施設の共有を円滑に行うため、校種間の情報共有をすすめる。	校種間の報連相を密に行い、施設の共有を円滑に進める。	他校種との連携強化	△
		(B) 施設の変化を受け入れ、前向きな話し合いを進める。	フレキシブルな施設共有と活用の在り方を前向きに発案し、実施する。	学園施設の有効活用	△

5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステツァ」を深める。	後援会や同窓会、教会などとの共催イベントの企画を積極的に進める。「地域とともに歩む学園」として、コンプライアンスを尊重し、社会的使命を果たすことにより、学園の存在感を高める。	(A) 教会やサレジオンシスターズ、地域などのイベントに率先して参加する。	Faccio io.Vado io.の精神を行動原理とし、自ら進んで協力し、城星の魅力を発信する。	カトリックミッション校の教師、サレジオンとしての自覚	○
		(B) 後援会・同窓会と連携を取り、子ども達の学びにつながるイベントを企画する。	サレジオンファミリーとして、共に子ども達と関わる喜びを共有できるよう心掛ける。	後援会、同窓会等との連携深化	△
		(C) コンプライアンス研修を進め、良心的な人間、良き社会人として成長する。	建学の精神を教師自身が生き、体現できるよう心掛ける。	社会人の模範となる教育者への成長	○

6.教育計画		(A) 宗教教育を基に子ども達の心を育てる	神の愛と温かい雰囲気の中で子ども達の心を育て、教師がその成長を子ども達や保護者に伝えられるようにする。	心の成長の具体化	○
		(B) 教育内容のブラッシュアップを行う。	これまで培ってきたノート教育の良さを生かし、ICT 教育の実践を段階的に行う。	教育のブラッシュアップ	△

7.募集計画		(A) 募集イベントの実施と内容の充実	学校説明会、オープンスクール、個別説明会、入試速報会等のイベントを実施し、参加者が城星の雰囲気を肌で感じられるように内容を充実させる。	新入生の確保 1 学年定員充足の維持	○
		(B) 外部イベントの参加と情報発信。	各幼保園、幼児塾等を訪問し、城星の魅力を発信する。また、カトリックフェアや、小学校フェア等他校と交わるイベントで情報を収集する。	城星学園小学校の魅力発信と他校との差別化	○

高等学校

中期方針	2025 年度方針	中期行動計画	2025 年度行動目標	ねらい（評価のポイント）	年度評価
1.ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育理念を堅持しながら、日々の教育活動の質をさらに高める。	サレジオ的な「柔和」が園児・児童・生徒・保護者によって日々感じ取られるような環境づくりに重点的に取り組む。そのために、和やかなアシステンツァを愚直に実践する。	ドン・ボスコとマリア・マザレロの教育を実践するために、聖フランシスコ・サレジオの柔和な精神を自分のものとしていく。	ドン・ボスコとマリア・マザレロのように、生徒が主語となるような教育に前向きに取り組む。	生徒の主体的な行動	△
			全ての人を尊敬し、受け入れた聖フランシスコ・サレジオの柔和な心で生徒と関わる。	さまざまな感情の自律、全ての人の受容	△
2.園児・児童・生徒・教職員が”Niente ti turbi.”(「何も恐れることはない」)を実感できるような教育環境を創造する。	大規模な施設設備更新工事に際し、園児・児童・生徒の安全確保について万全を期す。「安心」についての教職員の意識を高め、ドン・ボスコ子ども未来センターと各校種との連携を深める。	専門の先生方の助けを得ながらきめ細やかな生徒対応を行い、生徒の自己肯定感・自尊感情を向上させる。	ドン・ボスコ子ども未来センターとの連携を深め、生徒対応のスキルを向上させる。	生徒の成長への同伴	△
			さまざまなジャンルの専門家による研修を企画し、教員の視野を広げる。	主体的・積極的な研修参加、教育使命のなかでの実践	△
			さまざまな講習を通して、生徒自身の危機管理能力を向上させる。	生徒の学園における上級生としての意識向上、児童や園児の見守り実践	△

3.学園教職員の多岐にわたる研鑽の成果を園児・児童・生徒らの自主的で積極的な学びのために活かす。	他校園の実地見学に加え、オンライン研修などを積極的に取り入れながら、さまざまな教育実践についての学びを深める。一方で、学園教職員同士の自主的な学び合いの機会を増やす。	姉妹校や他校の見学やオンラインでの研修の機会を増やす。	共学校スタートの年にあたり、各教員が積極的な自己研鑽に努める。	生徒が主体となる授業実践、生徒指導のスキル向上	△
			学園内での研究授業の機会を増やし、公開授業を実施する。	他者評価を受け止めての授業力向上	△

4.学園教職員全体が、学園の未来とともに築き支えていくという意識に基づき行動する。	学園教職員の協働により、高校共学化にともなう環境の変化に柔軟・機敏に対応し、円滑な移行を実現する。また、今後の施設設備更新のあり方について、部署ごとに具体的な検討を行う。	共学化に伴うさまざまなことに気配りをし、学園全体の協力を願う。	共学化を成功させるため、教職員が希望を持って、主体的に動き、互いの豊かさを引き出していく。	共学化の成功	△
			新校舎建築にあたり、他校種と積極的にコミュニケーションをとり、必要な協力を惜しまない。	校種を超えた教師間の交流の場の増加	△

5.保護者・同窓生・姉妹校の教職員・教会関係の人びと・地域社会の人びととの「アシステンツァ」を深める。	後援会や同窓会、教会などとの共催イベントの企画を積極的に進める。「地域とともに歩む学園」として、コンプライアンスを尊重し、社会的使命を果たすことにより、学園の存在感を高める。	教員が良心的な人間、良き社会人としての資質向上に努め、地域との交流を深める。	後援会や同窓会の協力に感謝し、教育活動面での具体的な協働の可能性を模索し、実行していく。	後援会や同窓会との交流の積極的深化	○
			教会のイベントなどに生徒の積極的な参加を促す。	生徒のボランティア精神の養成、自ら考えて行動する力の習得	△
			地域のイベントに関心を持ち、地域社会との交流を深め、開かれた学園を目指す。	地域の人々との交流深化	○

6.教育計画		自主的学びのできる生徒を育てるために、与えすぎの教育からの脱却をめざす。	「学びの森」がより探究的な学びとなるよう、研修の機会を設ける。	生徒の気づきを見守り、待つこと	△
			共学化スタートの年にあたり、入学してきた生徒の満足度を高める。	生徒の楽しいを引き出すこと	○

7.募集計画		広報活動の再設計を行い、学校のイベントへの参加者を増やす。	全教員がさまざまな役割において広報であるという意識を高め、募集につなげる。	入学者数 140 名の確保	○
			大阪市の中学校を中心に、各中学校との関係を深め、募集につなげる。	入学者数 140 名の確保	○

3. 施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。（５００万円以上のもの）

工事・設備等名称		整備目的	執行月	執行金額(円)
①	体育館空調工事	体育館(グリーンルーム)の熱中症対策として空調機の設置を行う。	５月	28,600,000
②	第１キュービクル更新工事	体育館の空調機設置とあわせて第一キュービクルの更新作業を行う。	５月	12,430,000
③	講堂系統空調機器(アロエース)定期部品交換作業	講堂空調機(アロエース)の室内外機が経年劣化により交換が必要となったため機器取替工事を行う。	11月	14,960,000
④	学園揚水ポンプ更新(3台)	経年劣化によりポンプ漏水の可能性があったため３台とも更新する。	７月	5,368,000
⑤	(SS)ろ過機更新	体育館プールろ過機の経年劣化により更新工事を行う。	８月	14,080,000
総 計				75,438,000

財務状況（報告）

2024年度は、小学校校舎増築工事の資金確保のため、幼稚園バス駐車場及びテニスコート敷地の売却を行い、例年になく事業活動収入を得た。2025年度は、2024年度のような特段の収入はないが、学納金については小学校児童の増加、高校の男女共学化に伴う生徒数増から収入増の傾向にあるとともに大型定期預金や社債購入による利息収入が約1千万円あり、支出においては人件費が当初見込んでいたよりも結果的に3千万円減で、基本金組入前当年度収支差額が約4千800万円の黒字であった。引き続き、各校種の適正な学費の設定、人件費比率の改善、各経費の見直し等を行っていくとともに、2025年度からの高校男女共学化を契機に、高校生徒数の安定確保を目指しながら収支の改善・安定を求めている。

